

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 社会文化科学研究科

組織目標		達成状況(成果)
(下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)		
教 育	1)博士前期課程・後期課程の定員・専攻について志願動向等を見ながらの抜本的な見直し 2)O-NECUSによる受け入れ学生を中心とした国際協カプログラムの推進 3)国際化に向けての学生の研修機会の拡大 4)地域と連携しながら地域に貢献する人材育成のための教育システムの充実 5)シニア対象の教育プログラムの検討	1)博士前期課程・後期課程の定員・専攻について抜本的な見直しを行い、社会文化科学研究科の改組の概要(案)を策定した。詳細は概要に書き込んでいる。 2)O-NECUSによる受け入れ学生を中心とした国際協カプログラムは、昨年に引き続き、継続的に留学生を受け入れた。また、ダブルディグリーについては、修士課程に加えて、博士課程への留学生受け入れを2名実現した。 3)国際化に向けての学生の研修機会の拡大については、中国語の研修について、吉林大学に学生を派遣するプログラムを実施し、更に、恒常的な中国語研修プログラムを吉林大学と締結した。また、ストラスブール大学の政治学院と国際協定を結び、政治学院と社会文化科学研究科との相互の学生派遣プログラムを締結した。一方、高麗大学と国民大学との間に学術協定を締結し、学生の相互派遣プログラムの協定を結んだ。 4)地域連携委員会を設置し、地域創生ネットワーク・アゴラの維持運営及び地域公共政策コースの充実を図った。また、そうした努力の結果、地域公共政策コースにおいては、定員を超える学生の入学を実現させた。更に、中国銀行からの寄付を受けて、地元の企業経営に役立つ人材育成のセミナー(グローバルセミナー)を開講した。 5)シニア対象の教育プログラムを検討し、具体化への道筋をつけた。
	達成度:	④ 3 2 1
研 究	1)既存の研究プロジェクトの成果の発信と新たなプロジェクトの立ち上げ 2)国際的な学術交流の推進 3)紀要の抜本的再編	1)東アジア国際協カ・教育研究センターの活動の一貫として、同センター主催の国際シンポジウムの成果を一冊の書籍(東北アジアの幸福観)として公表した。また、新しいプロジェクトとして、グリーンイノベーション研究プロジェクトを自然科学研究科及び環境学研究科との共同で立ち上げた。 2)ベトナムのハノイ国家大学に教員を派遣し、ベトナムの人文社会科学との継続的な交流の道を開いた。また、O-NECUSの制度と協力しつつ、吉林大学と東北師範大学に教員を数名派遣し、講義を行うと同時に、両大学から教授を数名受け入れ、講義を開講した。また、ストラスブール大学の政治学院長を招き、学術講演を行い、今後の政治学院と社会文化科学研究科との学術交流の基礎を固めた。 3)紀要については、抜本的な検討を開始し、問題点を整理した。
	達成度:	④ 3 2 1
社 会 貢 献	1)AGORAを中心にした地域の官民各界との意見交流の拡大・促進及び産官学の連携強化 2)公開講座、公開シンポジウムなどを通じた研究成果の一般への発信	1)AGORAを継続的に開催し、地域の各界と意見交流を行い、その中で地域との連携を強化した。具体的には、美作市の仕分けへの参加、視察、講演を行い、また、来年度に向けての各種のプロジェクトへの共同的作成を行った。更に、倉敷市と岡山市の行政との具体的な連携を図った。 2)東アジア国際協カ・教育研究センターの活動を生かした公開講座を行った。
	達成度:	④ 3 2 1
評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義 (抜 粋)
	学部入試倍率	評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法:前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員(小数点3位を四捨五入)」の数値
	大学院充足率	評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法:4月入学者の「入学定員÷入学者数(小数点3位を四捨五入)」の数値。
	留年・休学・退学者数	評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年:正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者
	就職率	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
	科研費申請率、科研費採択率、採択金額 共同研究件数、受託研究件数、受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。